

在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会

～報告～

平成31年3月15日

目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

○顔の見える関係会議や在宅医療研修の内容について検討

○その他の研修（各団体主催研修会の連携・調整など）
について検討

平成30年度研修部会 実施状況まとめ

	内 容
第1回 (6月6日)	- 平成30年度顔の見える関係会議について 平成29年度第2回研修部会での意見をもとに、 平成30年度顔の見える関係会議の進め方を検討。 (今年度の方向性) 「柏モデル・さらなる飛躍～多職種連携の深化と進化～」 (内容) 第1回:脳血管疾患, 第2回:認知症(エリア別) 第3回:意思決定支援(アドバンス研修) - 各団体の研修会等の計画について
第2回 (2月28日)	- 報告 ・平成30年度顔の見える関係会議 ・第2回顔の見える関係会議エリア別FTアンケートの結果 ・第10回在宅医療推進のための多職種連携研修会 ・意思決定支援検討ワーキンググループについて - 平成30年度顔の見える関係会議の振り返り及び 平成31年度顔の見える関係会議の検討(方向性, 日程, 内容等) - 今後の多職種連携の推進のための研修のあり方について ・各団体の研修会等の共有(研修目的, 内容, 実績を共有) ・多職種連携の推進のための研修のあり方を検討

平成31年度顔の見える関係会議の検討

(1) 平成30年度顔の見える関係会議報告

【方向性】「柏モデル・さらなる飛躍～多職種連携の深化と進化～」

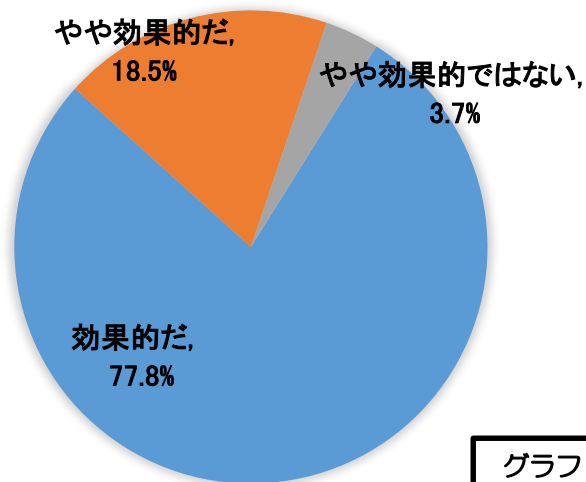
	テーマ	日時 ・ 参加者数(初参加率)
第1回 (通算24回目)	グループワーク・ミニレクチャー 「脳卒中の方が安心して在宅療養へ移行するために」	平成30年7月19日(木) 173名(41%)
第2回 (通算25回目)	グループワーク・ミニレクチャー(エリア別) 「認知症の方を地域で見守り, 支えあえるまちを目指して」 	(北部)平成30年11月19日(月) 138名(33%) (中央)平成30年11月16日(金) 156名(30%) (南部)平成30年11月30日(金) 139名(40%)
第3回 (通算26回目)	グループワーク・ミニレクチャー(アドバンス研修) 「柏モデルにおける意思決定支援ガイドラインの 構築に向けて」	平成31 年2月7日(木) 157名(21%)

平成30年度 延べ参加者: 763名
通算1回目～通算26回目:延べ参加者 5, 525名

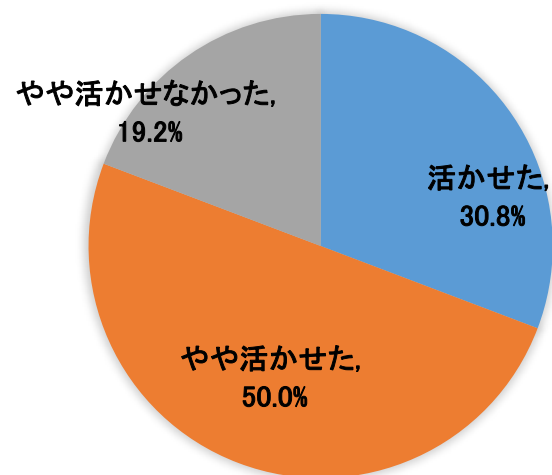
	テーマ	参加者の主な感想(平成30年度アンケート抜粋)
第1回 (通算24回目)	「脳卒中の方が安心して在宅療養へ移行するために」	改めて、職種毎に様々な視点があること、連携の大切さを感じた。(診療所医師) リハビリテーションの必要性や開始時期等を知れた、ミニレクチャーは勉強になった。(介護サービス事業者) 搬送後の治療やケアを知れた。介護には本人や家族の意向以外に経済力等の様々な環境が関係することが分かった。(救急隊)
第2回 (通算25回目)	エリア別 「認知症の方を地域で見守り 支えあえるまちを目指して」	認知症の人を支えるために、多職種により様々な視点や支援がある事を知れた(歯科医師) 認知症初期集中支援チームの取り組み等、市の取り組みを知れた。(薬剤師) 認知症を知ること、支援者や支援内容を知ることができ、連携しあうことの大切さを感じた。(郵便局員) 認知症は、今後増加し対応も多岐に渡るので連携を密にする必要がある。(民生委員)
第3回 (通算26回目)	アドバンス研修 「柏モデルにおける意思決定 支援ガイドラインの構築に向けて」	多くのテーマについて多職種で話し合うことができて良かった。(診療所医師) 意思決定確認は職種によって確認の仕方が異なり参考になった。(訪問看護師) 施設の種類により、延命の認識が異なることを知った。(リハビリ職) 障がい分野では、意思決定支援が日常業務としてあるため、終末期についてのGWは勉強になった。(相談員)
内容について平均約97%が 「役立った」「まあ役立った」と回答		

(2)今年度より初めて行った合同ファシリテーター会議の評価について

ファシリテーター会議は効果的か



合同FT会議は自分のエリアの顔会議に活かされたか



〈 考察 〉

- ファシリテーター会議への満足度は高く、顔の見える関係会議の円滑な実施に繋がってる。
- 合同ファシリテーター会議は、意見交換を行うことで、他エリアの考えを共有でき、会議当日の多様な意見へ対応することに役立っている。
- ファシリテーターを経験することにより個人のスキル向上や普段の業務にも活かしている。

〈参考〉

- アンケート対象者（第2回エリア別顔の見える関係会議のファシリテーター）：46名
- アンケート回答者：27名(回収率58.6%)

(3)平成31年度顔の見える関係会議について

<部会で出された主な内容>

◆方向性

- ・柏モデルや多職種連携は必須，意思決定支援に関する内容も入れていきたい。

◆対象者

- ・新たな多職種の参加を促す。
- ・市民が参加していることが柏市の良さであり，引き続き参加してもらえるように図る。

⇒初めての方や市民の方がGWに参加しやすい内容の検討。

◆内容

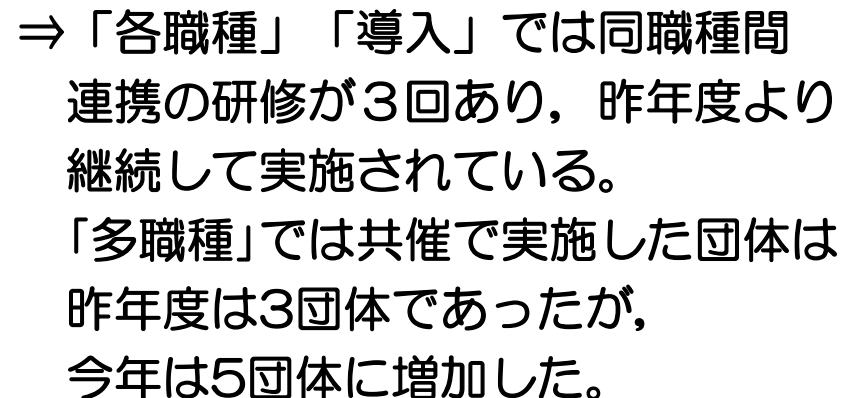
- (回数等)・年3回(エリア別，アドバンス研修，市内全域)が良かった。
- ・エリア別顔の見える関係会議のファシリテータ会議は合同が良い。
 - ・市内全域の会議では，地域毎に分けずに，グループワークをしてみたい。
- (テーマ)・地域の方が参加しやすいテーマ(認知症・災害)はどうか
- ・脳卒中は多職種がそれぞれの視点で参加できて良かった。
 - ・意思決定支援ガイドラインの活用方法についてロールプレイはどうか。
 - ・小児や障がい者のテーマも取り上げて欲しい。

◆その他

- ・FTが固定化しているため，いち参加者としても参加できるようにして欲しい。

平成30年度

平成30年度 実施研修分布図



<部会開催予定>

☆年2回

<部会での検討内容>

☆顔の見える関係会議の実施にむけて

☆在宅医療多職種研修会について

☆多職種連携の推進のための研修について

<顔の見える関係会議>

☆年3回(うち1回はエリア別, アドバンス研修)

<在宅医療多職種研修会>

平成30年度同様(時期, 開催回数, 規模等)に開催予定